

新刊のお知らせ 文藝春秋の本

<http://www.bunshun.co.jp/>

おまえの罪を 自白しろ

真保裕一

『ホワイトアウト』の著者が綴る
予測不能の“誘拐サスペンス”

自白を迫られる政治家・宇田が
隠そうとする罪の一つが、
総理の「オトモダチ利権」に
まつわる疑惑！
現実世界で起きている事件を
髣髴とさせる、政治家たちの「駆け引き」
勝つのは誰だ！？

2019年4月12日発売

定価：1600円＋税

体裁：四六判

上製カバー装

総頁：320頁

文
藝
春
秋



代議士の孫が“誘拐”された。

犯人の要求は、前代未聞、記者会見での「罪の自白」。

政治家としてのすべての罪を明らかにせよ！

【本書の内容】

衆議院議員の宇田清治郎は、総理がらみの疑惑を糾弾されていた。その最中、三歳になる孫娘が誘拐された。犯人の要求は、**罪の自白！**

タイムリミットは、翌日の午後五時。動機は、宇田家への怨恨か。総理の罪を暴くことにあるのか。保身のための駆け引きに長けた「官邸サイド」と対峙する「宇田一族」。幼き少女を救うための「家族の戦い」が始まる！

【著者紹介】真保裕一（しんぼ・ゆういち）

一九六一年、東京都生まれ。九一年『連鎖』で江戸川乱歩賞を受賞し作家デビュー。『ホワイトアウト』で吉川英治文学新人賞、『奪取』で山本周五郎賞、近著に『オリンピックへ行こう！』『こちら横浜市港湾局みなと振興課です』

【著者メッセージ】 『世界には、警察力が及ばずに、誘拐がビジネスとして定着している国が、不幸にも存在します。標的とされやすい企業経営者や政治家などのVIPは、家族にもボディガードをつけて自衛しているのです。また、ネットバンキングなどの発達により、身代金の受け渡しもハイテク化しつつあります。治安大国と言われる日本では、幸いにも誘拐事件は多発していません。が、いつ他国のハイテク誘拐を模倣する者が出ないとは限らないでしょう。現実には起きてはほしくない、という切なる願いをこめながら、今回の小説を書きました。リアルでサスペンスに満ちた物語になったと確信しています』

是非ともご高評いただきたく、よろしくお願いたします。

お問合せ先 文藝春秋プロモーション部：TEL:03-3288-6142 mail: pr@bunshun.co.jp